

容体応じた搬送 実践

中部国際医療センターで訓練

美濃加茂

来年一月に開院を控える美濃加茂市健康のまち二丁目の「中部国際医療センター」で十一日、病院と消防による合同の救急搬送訓練があった。

センターは、社会医療法人「厚生会」が木沢記念病院（同市古井町）を移転する形で開院する。現病院は可茂地区の救急車の約半分



院内の搬送経路を確認する参加者ら。美濃加茂市の中部国際医療センターで

を受け入れている基幹病院で、病床数が五十増え五百ことなる新病院は、さらに多くの救急搬送が見込まれている。

病院と可茂消防事務組合など六つの消防機関から五十五人が訓練に参加し、山田実貴人副院長の案内で院内の搬送経路を確認。救急車から降ろした患者役を、救急治療室や救急専用のコンピュータ断層撮影（CT）室のほか、集中治療室（ICU）やコロナ専用病棟にも運び、症状や容体に応じた対応を実践した。

可茂地区の医療機関では初めてとなる屋上ヘリポートも使い、県防災ヘリによる救急搬入も訓練した。新病院は来月一日に開院する。救急患者は同日から、外来患者は四日から受け入れられる。（渡辺大地）